監修　高木市之助　久松潛一
山岸德平　小島吉雄

新訂萬葉集

一

森本治吉解說
佐伯梅友校註
藤森朋夫校註
石井庄司校註

監修　高木市之助　久松潜一
山岸徳平　小島吉雄

新訂 萬葉集 一

森本治吉 解説
佐伯梅友 校註
藤森朋夫 校註
石井庄司 校註

朝日新聞社刊
日本古典全書

森本治吉（もりもとちきち）
明治三十三年熊本縣生。大正十五年東京大學國文學科卒業。中央大學教授を經て二松學舍大學教授。主著―作者類別萬葉集、萬葉精粹の鑑賞、日本詩歌の曙、萬葉集の藝術性、萬葉集の展開等。

佐伯梅友（さへきうめとも）
明治三十二年埼玉縣生。昭和三年京都大學國文學科卒業。東京教育大學名譽教授、大東文化大學教授。主著―萬葉語研究、源氏物語新抄、古今和歌集等。

藤森朋夫（ふぢもりともを）
明治三十一年長野縣生。昭和四十四年歿。昭和四年東北大學國文學科卒業。東京女子大學教授を經て大東文化大學教授。主著―堤中納言物語新譯、萬葉集研究書誌、近代秀歌等。

石井庄司（いしゐしやうじ）
明治三十三年奈良縣生。昭和三年京都大學國文學科卒業。東京教育大學教授を經て東海大學教授。主著―國文學と國語教育、古典考究（記紀・萬葉）等。

日本古典全書
「新訂萬葉集」一　森本治吉・佐伯梅友　藤森朋夫・石井庄司
昭和二十二年十二月二十日初版發行
昭和四十八年三月二十日新訂初版發行
昭和五十一年三月二十日第四刷發行
印刷所　凸版印刷株式會社
發行所　朝日新聞社（東京都千代田區有樂町・大阪市北區中之島・北九州市小倉北區砂津・名古屋市中區榮）
定價　九五〇圓

1391-211030-0042

目次

解説……三
一、名義……三
二、用字法……九
三、歌の年代……三
四、内容……三四
五、歌数……四八
六、編輯目的（附、私歌集）……五三
七、分類法……五六
八、編纂者……六一
九、傳來と感化……六四
十、研究、研究書……六八
凡例……七一
本文……七七
訓……七七
原文……二二九
巻第一……七七
巻第一……二二九
雜歌……七七
雜歌……二二九

泊瀬の朝倉の宮に宇御めたまひし天皇のみ代
一　天皇の御製の歌
高市の岡本の宮に宇御めたまひし天皇のみ代
二　天皇の、香具山に登りて望國したまひし時の御製の歌
三　天皇の、内の野に遊獵したまひし時、中つ皇命の、間人の連老をして獻らしめたまへる歌短歌幷せたり
五　讃岐の國安益の郡に幸しし時、軍の王の山を見て作れる歌短歌幷せたり
明日香の川原の宮に宇御めためひし天皇のみ代
七　額田の王の歌　未だ詳ならず
後の岡本の宮に宇御めたまひし天皇のみ代
八　額田の王の歌
九　紀伊の溫泉に幸しし時、額田の王の作れる歌
一〇　中つ皇命の紀伊の溫泉に往きたまひし時の御歌三首

泊瀬朝倉宮御宇天皇代
一　天皇御製歌
高市崗本宮御宇天皇代
二　天皇登香具山望國之時御製歌
三　天皇遊獵內野之時中皇命使間人連老獻歌幷短歌
五　幸讃岐國安益郡之時軍王見山作歌幷短歌
明日香川原宮御宇天皇代
七　額田王歌　未詳
後崗本宮御宇天皇代
八　額田王歌
九　幸紀伊溫泉之時額田王作歌
一〇　中皇命往于紀伊溫泉之時御歌三首

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

一三　中の大兄の三山の御歌一首短歌二首幷せたり
近江の大津の宮に宇御めたまひし天皇のみ代
一六　天皇の、内大臣藤原の朝臣に詔して、憐を、春の山の萬づの花の艶、秋の山の千ぢの葉の彩に競はしめ給ひし時、額田の王の、歌を以ちてことわりし歌
一七　額田の王の近江の國に下りし時作れる歌、井戸の王の和ふる歌
二〇　天皇の蒲生野に遊獵したまひし時、額田の王の作れる歌
二一　皇太子の答へませる御歌
明日香の清御原の宮に宇御めたまひし天皇のみ代
三一　十市の皇女の伊勢の神宮に參赴ましし時、波多の横山の巖を見て、吹黄の刀自の作れる歌
三三　麻續の王の伊勢の國伊良虞の島に流されし時、人の哀痛して作れる歌

一三　中大兄三山御歌一首幷短歌二首
近江大津宮御宇天皇代
一六　天皇詔內大臣藤原朝臣競憐春山萬花之艶秋山千葉之彩時額田王以歌判之歌
一七　額田王下近江國時作歌井戸王和歌
二〇　天皇遊獵蒲生野時額田王作歌
二一　皇太子答御歌
明日香清御原宮御宇天皇代
三一　十市皇女參赴於伊勢神宮時見波多横山巖吹黄刀自作歌
三三　麻續王流於伊勢國伊良虞島之時人哀痛作歌

二四　麻續の王の、これを聞き感傷して和ふる歌
二五　天皇の御製の歌
二六　或本の歌
二七　天皇の吉野の宮に幸しし時の御製の歌
藤原の宮に宇御めたまひし天皇のみ代
二八　天皇の御製の歌
二九　近江の荒れたる都を過ぎし時、柿本の朝臣人麿が作れる歌一首短歌幷せたり
三一　高市の連古人が近江の舊き堵を感傷みて作れる歌
或書に古市の黒人
三四　紀伊の國に幸しし時、川島の皇子の御作せる歌
三五　阿閉の皇女の勢の山を越えし時御作せる歌
三六　吉野の宮に幸しし時、柿本の朝臣人麿の作れる歌二首短歌二首幷せたり
四〇　伊勢の國に幸しし時、京に留まれる柿本の朝臣人麿

二四　麻續王聞之感傷和歌
二五　天皇御製歌
二六　或本歌
二七　天皇幸吉野宮時御製歌
藤原宮御宇天皇代
二八　天皇御製歌
二九　過近江荒都時柿本朝臣人麿作歌一首幷短歌
三一　高市連古人感傷近江舊堵作歌　或書高市黒人
三四　幸紀伊國川島皇子御作歌
三五　阿閉皇女越勢能山時御作歌
三六　幸吉野宮之時柿本朝臣人麿作歌二首幷短歌二首
四〇　幸伊勢國之時留京柿本朝臣人麿作歌三

が作れる歌三首
四三 當麻の眞人麿が妻の作れる歌
四四 石上の大臣の、從駕にして作れる歌
四五 輕の皇子の安騎の野に宿りましし時、柿本の朝臣人麿が作れる歌一首短歌四首幷せたり
五〇 藤原の宮の役民の作れる歌
五一 明日香の宮より藤原の宮に遷り居ましし後、志貴の皇子の御作せる歌
五三 藤原の宮の御井の歌一首短歌幷せたり
五四 大寶元年辛丑の秋九月、太上天皇の紀伊の國に幸しし時の歌二首
五六 或本の歌
二年壬寅、太上天皇の參河の國に幸しし時の歌
五七 長の忌寸奥麿が一首
五八 高市の連黑人が一首

首
四三 當麻眞人麿妻作歌
四四 石上大臣從駕作歌
四五 輕皇子宿于安騎野時柿本朝臣人麿作歌一首幷短歌四首
五〇 藤原宮之役民作歌
五一 從明日香宮遷居藤原宮之後志貴皇子御作歌
五三 藤原宮御井歌一首幷短歌
五四 大寶元年辛丑秋九月太上天皇幸紀伊國時歌二首
五六 或本歌
二年壬寅太上天皇幸參河國時歌
五七 長忌寸奥麿一首
五八 高市連黑人一首

五九　譽謝の女王の作れる歌
六〇　長の皇子の御歌、從駕にして作れる歌
六一　舍人の娘子の、從駕にして作れる歌
六二　三野の連 名闕 の入唐の時、春日の藏首老が作れる歌
六三　山上の臣憶良が大唐に在りし時、本郷を憶ひて作れる歌
慶雲三年丙午、難波の宮に幸しし時の歌二首
六四　志貴の皇子の御歌
六五　長の皇子の御歌
太上天皇の難波の宮に幸しし時の歌四首
六六　置始の東人の作れる歌
六七　作主未だ詳ならざる歌　高安の大島
六八　身人部の王の作れる歌
六九　清江の娘子の長の皇子に進れる歌

五九　譽謝女王作歌
六〇　長皇子御歌從駕作歌
六一　舍人娘子從駕作歌
六二　三野連 名闕 入唐時春日藏首老作歌
六三　山上臣憶良在大唐時憶本郷作歌
慶雲三年丙午幸難波宮時歌二首
六四　志貴皇子御歌
六五　長皇子御歌
太上天皇幸難波宮時歌四首
六六　置始東人作歌
六七　作主未詳歌　高安大島
六八　身人部王作歌
六九　清江娘子進長皇子歌

七〇 太上天皇の吉野の宮に幸しし時、高市の連黒人が作れる歌
大行天皇の難波の宮に幸しし時の歌三首
七一 忍坂部の乙麿が作れる歌
七二 作主未だ詳ならざる歌　式部卿藤原の宇合
七三 長の皇子の御歌
大行天皇の吉野の宮に幸しし時の歌二首
七四 或は云ふ天皇の御製の歌
七五 長屋の王の歌
七六 和銅元年戊申、天皇の御製の歌
七七 御名部の皇女の、和へ奉れる御歌
七八 三年庚戌の春二月、藤原の宮より寧樂の宮に遷りましし時、御輿を長屋の原に停めて、古郷を廻り望みて御作せる歌
七九 一書の歌

七〇 太上天皇幸吉野宮時高市連黒人作歌
大行天皇幸難波宮時歌三首
七一 忍坂部乙麿作歌
七二 作主未詳歌　式部卿藤原宇合
七三 長皇子御歌
大行天皇幸吉野宮時歌二首
七四 或云天皇御製歌
七五 長屋王歌
七六 和銅元年戊申天皇御製歌
七七 御名部皇女奉和御歌
七八 三年庚戌春二月從藤原宮遷于寧樂宮時御輿停長屋原廻望古郷御作歌
七九 一書歌

八一　五年壬子の夏四月、長田の王を伊勢の齋宮に遣しし時、山邊の御井にして作れる歌三首
寧樂の宮
長の皇子の、志貴の皇子と佐紀の宮にして宴せる歌
八四　長の皇子の御歌
卷第二……一〇一
相聞……一〇一
難波の高津の宮に宇御めたまひし天皇のみ代
八五　磐姫の皇后の、天皇を思ひて御作せる歌四首
八九　或本の歌一首
九〇　古事記の歌一首
近江の大津の宮に宇御めたまひし天皇のみ代
九一　天皇の、鏡の王女に賜へる御歌一首
九二　鏡の王女の、和へ奉れる歌一首
九三　内大臣藤原の卿の鏡王女を娉ひし時、鏡の王女の、

八一　五年壬子夏四月遣長田王伊勢齋宮時山邊御井作歌三首
寧樂宮
長皇子與志貴皇子宴於佐紀宮歌
八四　長皇子御歌
卷第二……一三九
相聞……一三九
難波高津宮御宇天皇代
八五　磐姫皇后思天皇御作歌四首
八九　或本歌一首
九〇　古事記歌一首
近江大津宮御宇天皇代
九一　天皇賜鏡王女御歌一首
九二　鏡王女奉和歌一首
九三　内大臣藤原卿娉鏡王女時鏡王女贈内大

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

内大臣に贈れる歌一首
九四 内大臣の、鏡の王女に報へ贈れる歌一首
九五 内大臣の、采女安見兒を娶たる時作れる歌一首
九六 久米の禪師の石川の郎女を娉ひし時の歌五首
一〇一 大伴の宿禰の巨勢の郎女を娉ひし時の歌一首
一〇二 巨勢の郎女の、報へ贈れる歌一首
明日香の清御原の宮に宇御めたまひし天皇のみ代
一〇三 天皇の、藤原の夫人に賜へる御歌一首
一〇四 藤原の夫人の、和へ奉れる歌一首
藤原の宮に宇御めたまひし天皇のみ代
一〇五 大津の皇子の竊に伊勢の神宮に下りて還り上りましし時、大伯の皇女の御歌二首
一〇七 大津の皇子の、石川の郎女に贈れる御歌一首
一〇八 石川の郎女の、和へ奉れる歌一首
一〇九 大津の皇子の竊に石川の女郎に婚はしし時、津守の

臣歌一首
九四 内大臣報贈鏡王女歌一首
九五 内大臣娶采女安見兒時作歌一首
九六 久米禪師娉石川郎女時歌五首
一〇一 大伴宿禰娉巨勢郎女時歌一首
一〇二 巨勢郎女報贈歌一首
明日香清御原宮御宇天皇代
一〇三 天皇賜藤原夫人御歌一首
一〇四 藤原夫人奉和歌一首
藤原宮御宇天皇代
一〇五 大津皇子竊下於伊勢神宮還上時大伯皇女御歌二首
一〇七 大津皇子贈石川郎女御歌一首
一〇八 石川郎女奉和歌一首
一〇九 大津皇子竊婚石川女郎時津守連通占露

連通がその事を占ひ露はししかば、皇子の御作せる歌一首
二〇　日並の皇子の尊の、石川の女郎に賜へる御歌一首　女郎字を大名児といふ
二一　吉野の宮に幸しし時、弓削の皇子の額田の王に贈れる歌一首
二二　額田の王の、和へ奉れる歌一首
二三　吉野より蘿生せる松が柯を折り取りて遣しし時、額田の王の、奉り入れたる歌一首
二四　但馬の皇女の、高市の皇子の宮に在しし時、穂積の皇子を思ひて御作せる歌一首
二五　穂積の皇子に勅して近江の志賀の山寺に遣しし時、但馬の皇女の御作せる歌一首
二六　但馬の皇女の、高市の皇子の宮に在しし時、竊に穂積の皇子に接はしし事既にあらはれて後御作せる歌

其事皇子御作歌一首
二〇　日並皇子尊賜石川女郎御歌一首　女郎字曰大名児
二一　幸吉野宮時弓削皇子贈額田王歌一首
二二　額田王奉和歌一首
二三　從吉野折取蘿生松柯遣時額田王奉入歌一首
二四　但馬皇女在高市皇子宮之時思穂積皇子御作歌一首
二五　勅穂積皇子遣於近江志賀山寺時但馬皇女御作歌一首
二六　但馬皇女在高市皇子宮時竊接穂積皇子之時既形而後御作歌一首

一首
二七　舍人の皇子の御歌一首
二八　舍人の娘子の、和へ奉れる歌一首
二九　弓削の皇子の、紀の皇女を思ふ御歌四首
二三　三方の沙彌が、園の臣生羽が女を娶て未だ幾時も經ず、病に臥して作れる歌三首
二六　石川の女郎の、大伴の宿禰田主に贈れる歌一首
二七　大伴の宿禰田主が報へ贈れる歌一首
二八　石川の女郎の、更に大伴の宿禰田主に贈れる歌一首
二九　大津の皇子の宮の侍石川の女郎の、大伴の宿禰宿奈麿に贈れる歌一首
三〇　長の皇子の、皇弟に與ふる御歌一首
三三　柿本の朝臣人麿が、石見の國より妻に別れて上り來し時の歌二首短歌幷せたり
三六　或本の歌一首短歌幷せたり

二七　舍人皇子御歌一首
二八　舍人娘子奉和歌一首
二九　弓削皇子思紀皇女御歌四首
三三　三方沙彌娶園臣生羽之女未經幾時臥病作歌三首
三六　石川女郎贈大伴宿禰田主歌一首
三七　大伴宿禰田主報贈歌一首
三八　石川女郎更贈大伴宿禰田主歌一首
三九　大津皇子宮侍石川女郎贈大伴宿禰宿奈麿歌一首
三〇　長皇子與皇弟御歌一首
三三　柿本朝臣人麿從石見國別妻上來時歌二首幷短歌
三六　或本歌一首幷短歌

一四〇　柿本の朝臣人麿が妻依羅の娘子の、人麻呂と相別る歌一首
挽歌……二四
後の岡本の宮に宇御めたまひし天皇のみ代
一四一　有間の皇子の、自ら傷みて松が枝を結べる歌二首
一四三　長の忌寸意吉麿が結松を見て哀咽せる歌二首
一四五　山上の臣憶良が追和せる歌一首
一四六　大寶元年辛丑、紀伊の國に幸しし時、結松を見る歌一首
近江の大津の宮に宇御めたまひし天皇のみ代
一四七　天皇の聖躬不豫みたまひし時、太后の奉れる御歌一首
一四八　一書の歌一首
一四九　天皇の崩しし後、太后の御作せる歌一首
一五〇　天皇の崩しし時、婦人の作れる歌一首　未だ姓氏を詳に

一四〇　柿本朝臣人麿妻依羅娘子與人麻呂相別歌一首
挽歌……二四九
後岡本宮御宇天皇代
一四一　有間皇子自傷結松枝歌二首
一四三　長忌寸意吉麿見結松哀咽歌二首
一四五　山上臣憶良追和歌一首
一四六　大寶元年辛丑幸紀伊國時見結松歌一首
近江大津宮御宇天皇代
一四七　天皇聖躬不豫之時太后奉御歌一首
一四八　一書歌一首
一四九　天皇崩後太后御作歌一首
一五〇　天皇崩時婦人作歌一首　未詳姓氏

せず

一五一　天皇の大殯の時の歌二首

一五三　太后の御歌一首

一五四　石川の夫人の歌一首

一五五　山科の御陵より退散りし時、額田の王の作れる歌一首

明日香の清御原の宮に宇御めたまひし天皇のみ代

一五六　十市の皇女の薨りましし時、高市の皇子の尊の御作せる歌三首

一五九　天皇の崩しし時、太后の御作せる歌一首

一六〇　一書の歌二首

一六二　天皇の崩しし後、八年九月九日、奉爲の御齋會の夜、夢の裏に習ひ賜へる御歌一首

藤原の宮に宇御めたまひし天皇のみ代

一六三　大津の皇子の薨りましし後、大來の皇女の、伊勢の

一五一　天皇大殯之時歌二首

一五三　太后御歌一首

一五四　石川夫人歌一首

一五五　從山科御陵退散之時額田王作歌一首

明日香清御原宮御宇天皇代

一五六　十市皇女薨時高市皇子尊御作歌三首

一五九　天皇崩時太后御作歌一首

一六〇　一書歌二首

一六二　天皇崩之後八年九月九日奉爲御齋會之夜夢裏習賜御歌一首

藤原宮御宇天皇代

一六三　大津皇子薨後大來皇女從伊勢齋宮還京

齋宮より京に還りたまひし時御作せる歌二首
一六五　大津の皇子のみ屍を葛城の二上山に移し葬りし時、大來の皇女の哀傷して御作せる歌二首
一六七　日並の皇子の尊の殯宮の時、柿本の朝臣人麿が作れる歌一首短歌幷せたり
一七〇　或本の歌一首
一七一　皇子の尊の舍人等が、慟傷して作れる歌二十三首
一九四　柿本の朝臣人麿が、泊瀬部の皇女忍坂部の皇子に獻れる歌一首短歌幷せたり
一九六　明日香の皇女の木(きの)瓰の殯宮の時、柿本の朝臣人麿が作れる歌短歌幷せたり
一九九　高市の皇子の尊の城(きの)上の殯宮の時、柿本の朝臣人麻呂が作れる歌一首短歌幷せたり
二〇二　或本の歌一首
二〇三　但馬の皇女の薨りましし後、穗積の皇子の、冬の日

之時御作歌二首
一六五　移葬大津皇子屍於葛城二上山之時大來皇女哀傷御作歌二首
一六七　日並皇子尊殯宮之時柿本朝臣人麿作歌一首幷短歌
一七〇　或本歌一首
一七一　皇子尊舍人等慟傷作歌二十三首
一九四　柿本朝臣人麿獻泊瀬部皇子忍坂部皇子歌一首幷短歌
一九六　明日香皇女木瓰殯宮之時柿本朝臣人麿作歌一首幷短歌
一九九　高市皇子尊城上殯宮之時柿本朝臣人麻呂作歌一首幷短歌
二〇二　或本歌一首
二〇三　但馬皇女薨後穗積皇子冬日雪落遙望御

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com